令和３（２０２１）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No．12（R3．6．30発行）文責 校長 福田雅也

サイモンは、ねこである

「サイモンは、ねこである」

これは絵本の題名です。そしてこの絵本、今日の朝の時間に私が校長人権講話で子どもたちに読んだ絵本なのです。

今回の校長講話では、ぜひ子どもたちに「違いを認め合う」ことの大切さを伝えたいと、以前から考えていました。しかし、難しい話ではなく、１年生にも伝わるようにしたいと考えると、どんな内容にして、どのように伝えるのか少し悩んでいました。いろいろと考える中で、絵本を使ってみたらどうだろうと考えました。ネットで調べたり、図書室の絵本を探したりしました。しかし、なかなか私の思いに合った絵本を見つけることができず、別の方法を考え始めていた時、何度目かに行った図書室で見つけたのが「サイモンは、ねこである」だったのです。あらすじはこうです。

> 主人公はいたずらっぽい目で自己主張する子ネコのサイモン。
>
> ある日、彼はライオン、チーター、ピューマ、クロヒョウ、トラなどの大型ネコ科の野獣たちに出会います。そして、物おじせずに「こんにちは。ぼく、サイモンです。ぼくたち、似てますね。」と言ったのです。
>
> すると5匹の野獣たちは、目を丸くして驚いた後、ゲラゲラ笑いだしました。野獣たちは、自分の強さや速さ、大きさや美しさ等を自慢しながら、サイモンとは違うと突っぱねたのです。
>
> サイモンはしょんぼりと「ほんとだ。全然違います。へんだなあ。何となくみんな似ていると思ったんだけど・・」とつぶやきました。
>
> すると意外にも野獣たちは、改めてお互いをじっくり見比べ、似ているところがあることに気づき、次々にそれを挙げていったのです。
>
> そこでサイモンはうれしくなり「それ、全部、ぼくも持ってます。ちっちゃいですけど・・」と恐れずに答えました。
>
> これをきっかけに、５匹の野獣とサイモンは仲良くなり、じゃれて、はねて、ねこパンチ。とびかかり、ねころがって一日中遊びました。

「みんな同じねこの仲間だったんだ」という終わり方で、私がイメージしていたような内容とは少し違っていたのですが、絵がとても可愛くて、ユーモラスな面もあり、低学年の子どもたちが喜んでくれそうな絵本だったので、これに決めました。最後は「みんな同じねこの仲間だったんだ」という終わり方ですが、その途中に、それぞれの違いが明確に示されます。この流れは、「人それぞれいろいろな違いがあるけれど、同じ人間、違いを認め合って仲良く過ごしていこう」とまとめることができる、と考えたのです。そして、講話の内容を構想しながら何度か読み返すうちに、この絵本は、私が思っていた以上の大切なことを子供たちに伝えることができると確信しました。例えば、強い相手に物おじせず話しかけていくサイモンの姿、サイモンの言葉を聞き入れ、お互いを見比べる強い立場の野獣たちの姿等です。しかし、絵本は子どもたち自身が、感じ取ることが大切で、大人があれこれ解説するものではないのでしょう。人権講話ですから、「違いを認め合う」という一点だけは、子どもたちに伝えましたが、その他は、きっと子どもたちが感じ取ってくれると信じています。

私の講話が、人権旬間に各学級で進められている人権学習の授業とともに、子どもたちが今以上に深いつながりの中で、高木小学校が楽しいと感じてくれる一助になればと願っています。